

障がい者理解促進 成果報告

テーマ

「他者を理解するための第一歩。自分たちの目で見、知ることから始める」

活動前、私たちは「障がい」に対して、難しい、怖い、関わり方がわからないといった理解以前のハードルを感じていた。

そこで、若者の「障がい者差別解消法」「合理的配慮」の認知向上への取り組みを通じ、他者を理解するための第一歩として、まず自分たちの目で見、知ることの重要性を示した。

調査活動

大田区役所障がい福祉課とのミーティング



主に私たち学生側が疑問を持ったことに関して、大田区の方に答えていただく形式でミーティングを行なった。

- ・大田区の障がい者理解の現状
- ・合理的配慮のために行われている取り組み
- ・若い世代に向けて障がい者理解をどう進めているかが分かった。

障がい者支援施設の見学



私たち自身が障がい者について理解を深めるため、障がい者就労支援施設を見学した。

施設の役割を理解し、実際に施設を利用している方々の様子を間近でみる事ができた。そこでは障がい者と健常者の壁がなく、対等な関係が築かれていた。

文化祭のポッチャブース出店



障がいに対して興味を持ってもらう入り口として、障がいの有無にかかわらず楽しめるスポーツであるポッチャを用いたブースを出店した。

ハンデを設けたルールを体験してもらうことで、身体の不自由さを疑似的に体感し、身体障害への理解につながった。

リサーチを通して

1. 取り扱いの難しい内容

→ 親しみやすいキャラクターを制作し、必要以上に構えすぎない雰囲気を作る

2. どう接していいかわからない、怖い

→ 障がい者も健常者も一緒に楽しめるポッチャの追加ルールやデザインワークの企画を提案し、コミュニケーションの場を作る

3. 知らないから関わり方がわからない

→ キャラクターやポスターによって知るきっかけを増やす

最終提案

キャラクター

緑のハート
誰かの「こうしてほしい」をキャッチできるセンサー。みんながくれた思いやりが詰まっていて、溢れた優しさが周りへ広がっていく。

お腹のハート
おもんばかりの感情によって色が変化する。嬉しい時ほど明るくなる。



本名：大田慮（おおたおもんばかりる）

愛称：**おもんばかりる**

「慮る」から誕生したキャラクター。

「みんなからの思いやりパワーがおもんばかりるを強く、優しくする。」

・制作意図

障がいについて知ってもらうためには、まず「興味を持ってもらうこと」が重要だと考え、その入口として親しみやすいキャラクターを制作した。

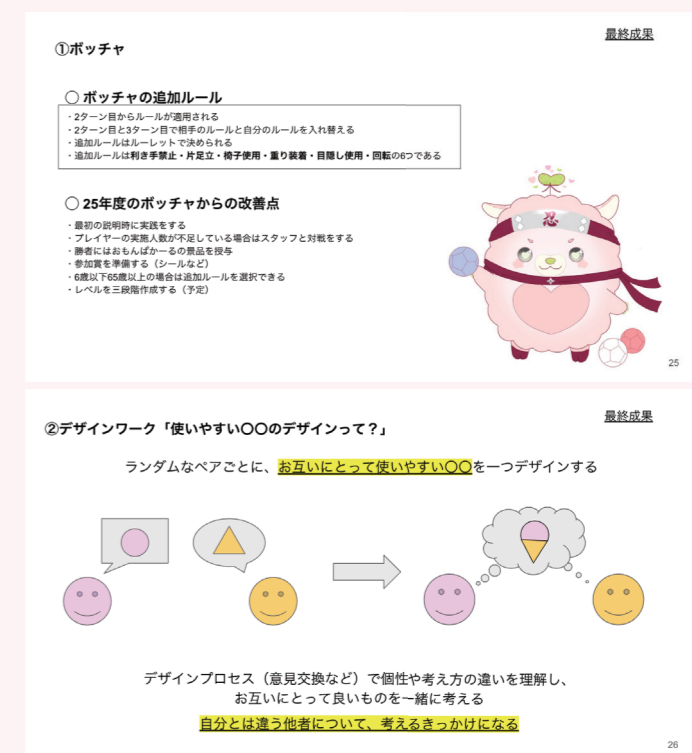
ポスター



キャッチコピー「おもんばかりる」+キャラクターをメインにしたビジュアル

→「このキャラクターかわいい！」から興味を惹き、障がい福祉課を知る動線を作る
障がい者を特別扱いするのではなく、障がい有無に関わらず他人を慮るという行為を啓発する
これによって、真の意味での障がい者差別解消を目指す。

かまた祭ワークショップ



健常者と障がい者の相互理解の場を創出する

- ・追加ルールがあるポッチャ
片足立ち、アイマスク、利き手禁止などの追加ルール
- ・デザインワーク「使いやすい〇〇のデザインって？」
ランダムなペアごとに、お互いにとって使いやすい〇〇を一つデザインする。

キャラクターやイベントを障がいについて知るきっかけに設定し、若い世代に興味を持ってもらう。そのことが、若い世代の障がい者理解への第一歩となる